



DISTRICT 2500

## OBIHIRO

ROTARY CLUB

No.3061

第3379回例会  
平成26年1月29日

方針 One for All, All for One

一人はみんなのために、みんなは一人のために 会長 渡辺喜代美

2013-14年度国際ロータリーのテーマ ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を

## ■プログラム「ゲスト卓話」

「人と出会い 甲子園へ」



ただいまご紹介にあずかりました、帯広大谷高校野球部監督をしております、網野と申します。よろしくお願いいたします。最初に、昨年の甲子園出場に際しましては、本当に多くの方々からご支援、ご協力、また、激励のお言葉等、賜りましたことを改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

昨年、酒井さんより、このご講演の依頼を受けまして、校長にも相談したところ、「協力できることはぜひ」ということでした。また、先輩の森田先生にも言われておりましたので、お断りすることができず参った次第であります。

最初は、甲子園の時の簡単なエピソードなんかを話せばいいだろう、くらいにしか思っていなかったのですが、今年になって、1月の2週目ぐらいに酒井さんより、「この演題はどうする?」ということを受けまして、そんな大それたもののかと思いました。また、酒井さんのほうに講演自体どのような内容が適しているのか確認したところ、「甲子園に行くまでに、たくさん苦労したと思いませんから、その時の話など…」ということでした。ただ、発足時のことと思い出してみて、当時は確かにちからかったとは思いますが、今、思い返してみて、自分自身にとって、大切な経験であったといいますか、必要な経験であった、という思いが強く、振り返ってみて、苦しかったとか、苦労したというふうにはあまり思っていないです。そう考えると、自分自身で振り返ってみて、甲子園に行くまでに本当に多くの人から刺激を受け、たくさんのことを教えてくれた結果、このたびの、甲子園出場という形になったわけですから、このように「人と出会い、甲子園へ」という演題にさせていただきました。

今回の甲子園メンバーに出会えたことも、もちろん人の出会いですが、この子たちは、その先輩を見て、帯広大谷の野球を見て入ってきたわけですし、その先輩も、そのまま先輩を見て、帯広大谷を選んでくれたわけですから、そう考えると、最初に入部してくれた4人の生徒との出会いが、その後の今日までの形につながっているのかなと思います。この4人の選手たちにつきましては、後で、少し当時のエピソードなんかをお話ししようと思います。

自分自身も小学校から大学まで野球をやってきたわけですが、野球をやってきたうえで、一番影響を与えてくれた人が、中学時代に出会えた恩師の山本鉄弥先生であります。もう7、8年前に現職のまま、3月に退職予定だったその年の1月に亡くなられたのですが、この人と出会いわなかつたら、高校でも、大学でも野球はやっていかないかもしれないですし、もちろん教員や、監督にもなっていないわなかつたと思います。私が、中学2年になるときに鹿部中学校から、知内中学校に赴任しなった先生なのですが、当時、鹿部中学校といいますと、函館を含む渡島地区では毎年優勝するような強豪チームの監督さんでした。中学校で全道大会に出るには、大変で、高校であれば、夏の選手権であれば、支部予選3試合を勝ち抜いて、3高校が全道大会に出場できるのですが、中学校ではまず、渡島の支部予選を3試合勝ち抜いて、そのあとに優勝校・準優勝校が集まって、全渡島大会をやりまして、優勝したチームが最後に函館市内大会を優勝したチームとの代表決定戦を行い、勝ち抜いた1チームだけが全道大会に出場するわけですが、山本先生率いる鹿部中学校は、何度も全道大会に出場し、全道優勝も2回、全国大会でも何回か、勝ったことのある先生でした。その先生が私が中学2年生の時に赴任してきましたときまで、それまで知内中学校は、1度渡島大会に出たことがあるだけのチームでしたが、その年は、渡島の西部地区一回戦で負けて、渡島大会にすら出場できなかつたのですが、3年次には、渡島西部地区を優勝し、全渡島大会、そして、代表決定戦も勝って、全道大会に出場できました。全道大会では、2回戦からで、2つ勝つことができて、ベスト4でした。その山本先生から教わった野球が、現在までの私の原点にもなっています。例えば、攻撃の時のプロックサインは19種類あるのですが、その時のまま現在も使っています。実はこの山本鉄弥先生が私が高校2年生の時に知内高校に赴任しまして、後のまた、全道大会初出場になりました。自分は1972年、昭和47年生まれで、いわゆるベビーブーム世代なのですが、当時の知内高校は、定員を割り込んでいる、いわゆる底辺校で、野球部も一応あったのですが、ほとんど活動しておらず、一つ上の先輩は一人もいなくて、2つ上の先輩が4人ぐらいでした。そんな知内高校進学については自分の親も、同級生の親も反対で、山本先生に対しても、知内高校じゃなくて、違う高校に赴任するように、お願いしていました。でも、山本先生は、知内高校へ行くという意志は変わらず、自分たちもまた、山本先生の野球がやりたいという一心で、親にお願いして、知内高校へ進学しました。この時の経験も、後に帯広大谷の監督になる自分にとっては生きたのかなと思っています。

そのあと、私たちの3つ下の代が、選抜甲子園出場を果たしまして、このときは、町立の高校としては、史上初ということでした。その後の甲子園出場はなかったのですが、何度も全道大会、南北海道大会に出場した山本先生ですが、実はこの先生は、ご自身での野球経験が無いんです。鹿部中学校に赴任し、野球部の顧問を持った最初の頃は、遊び程度に放課後やっていて、土・日・夏休み中などもほとんど休みにしていました。夏休み中に1回、遠征という名目で、函館に、練習試合に出かけていたそうですが、ある年、ものすごく弱かったので、函館の小学生とやったそうです。でも、試合にならず、相手の監督に誤って試合を途中でやめたそうですが、その時に、函館の駅で、生徒に自由時間をやって、デパートで買い物をするなり、好きなものを食べてくるなり、言ったそうです。そうしたら、2年生は喜んで行ったけれども1年生は、出かけずにいたと。その1年生たちが翌日、全員丸坊主にしてきて、野球をいっぱいやって、うまくなりたいと言っていたそうです。それから山本先生は、本を買って野球を勉強したり、いろんな人に聴きに回って勉強したそうです。2年生たちはやめていて、丸坊主にしてきた1年生だけで練習したそうですが、その子たちが、3年生になった

1月15日例会 会員総数90名(内免除会員6名)

出席報告

出席者数 61名

欠席者21名  
(出免6名)

0

マークアップ 8名

(名) 90

時に初めて、全道大会に出場し、そこから野球にめりこんでいったそうです。指導者の気持ち次第で、どうにでもなる、どうにでもできるということを実践したと思います。

山本先生は、打てなくても勝てる。ということを日々、言われてまして、正確なバントと、走塁を徹底的に教わりました。また、守備力も徹底的に鍛え上げられました。練習もいろいろなパターンの練習を教えてもらい、監督になった現在も正直すべての練習をこなすことができません。本当にやらせたいんですけど。初めて北・北海道大会に出場した2008年は実はすごい選手が揃っておりまして、今回ヤカルトに入団が決まった杉浦が2年生の時なんですが、もうこの選手たちで、全道大会に出場できなかつたら、よっぽど、自分は、監督としての素質がないだろうと思いつ、辞めたほうがいいのかなと思っていたほどでした。その2007年の冬の練習から、山本先生に教わった、野球を思い出して、それまでは、自分で勝手に、この練習は、必要無いだろ。とか、あまり、数やらなくていいだろ。何て考えておりましたが、とにかく多くのパターン練習をやり、その練習の意味を勘違いしていたということがいくつも出てきました。そこから、やらなくてはならないことがたくさんあることに気づかされ、実際にそれらの練習をやることによって、また違った観点から野球を指導できた気がしますし、現在でも気づかされる点がたくさんあると思っております。

一方大学の時の恩師の丹野先生は、山本先生とは全く正反対と言ってもいいくらいで、とにかく打たないとダメだという監督さんでした。最初の頃、1年生、2年生ぐらいまでは、やっぱり、山本先生の野球が一番だと思っておりましたから、「何言ってるんだ!」なんて思って、言うことをきかなかつたこともあったかもしませんね。でも、先輩方も、みんな監督さんの言うことをしっかり聞いてやっておりましたし、結果もきっちり出ていましたから、北海道内ではほとんど負けることはなかったですね。ちなみに、大学野球は、春の大会と秋の大会の、年2回、全国につながる大会がありまして、春は、北海道で優勝したらそのまま全国に出場できるのですが、当時は秋は東北と、北海道で、1校しか全国へ出られないかったです。自分が1年の時の秋は、北海道で優勝し、東北との代表決定戦で東北福祉大学に敗れました。当時の福祉大はものすごく強くして、エースが、一昨年、メジャーから、栄天に来た斎藤隆投手で、キャブテンが、昨年阪神を引退したアニキ金本選手、プロに7、8人いましたね。その福祉大とも負けはしましたが、2-0の試合をするなど、札大も強かったと思います。大学4年になるときの春の合宿で、毎年、3月中旬から4月上旬にかけての3週間ほど、埼玉、群馬のほうに行っていたのですが、4年になる年ですから、最高学年になるわけですけれども、そこで夜に、丹野監督さんと自分たち4年生が一杯やるんですけども、そこで、丹野先生は、「お前たちは、自分のやってきた高校野球が一番だと思ってるからそれをまとめるのが大変なんだ」ということを言いました。そう言われればそうかと、気づかされました。札幌に戻つてからは、とにかく監督が求めるホームランを打つための練習をしました。今考えると、今頃なんですけれども、高校の時の山本先生は、ホームランなんていらないという先生でしたから。下手するとホームランを打つたら怒る感じでした。「かんちがいするな」とか「ホームランを打つとバッティングを崩す」なんてことをよく言われてました。高校時代の自分たちは確かにそうだったのかもしれません。とにかく、大学4年時は、初めてホームランを打つために、トレーニングや、スイングスピードを上げるとか、ボールを上にあげるための練習をしました。ある時、監督さんに「このバットでホームラン打てるようになつたら使ってやる」と言われました。普通のバットより重いバットだったので、結局なんとか打てるようになりました。レギュラーとして使ってもらえるようになりました。小学3年から野球を始めてつだけやつたことがないポジションがあって、それが、セカンド、二塁手なんですけども、その二塁で試合に出ることができました。これも、高校時代に冬の練習の中で、いろんなパターン練習を教えてくれた山本先生のおかげだと思います。

丹野先生のほうは、今は大学の監督を降りられているんですけども、今でもたまたま連絡を取ることがあるんですが、帯広に来て、すぐの時は、何も無かったものですから、丹野先生から、使い古しのボールとか、バットをいただきまして、本当にありがたかったし、助かりました。

北・北海道大会の決勝で勝った後、球場を出るときに携帯電話を確認したところ、着信が100を超えておりまして、メールを自分はあまりやらないですが、ショートメールが80件入っていたんですけども、その中に、丹野先生からのメールもありまして、「網野、よくやった。いいチームをつくったな。」って入っていました。すぐにお電話いたしまして、「監督さん、わざわざメールありがとうございます」といいことを言いましたら、「おお、ほんとによくやった。おめでとう」と言ってくれました。そして、「いいか、こうなつたら、全国優勝狙ってやるんだぞ」というふうに「いいえ、そんな力のあるチームじゃありませんから」何て答えましたら、すぐさま、「何言ってんだ。だからお前はダメなんだ。いいか、網野、よく聞け、高校生は紙一重だ。お前たちのときだって、お前たちと、東北福祉や、東京の大学とだったら実力的には大分差があったけど、それでも試合になつたじゃないか。高校生なんて、短い期間でもいくらでも伸びていくぞ。そう考えたら、本当に紙一重だぞ、お前がどれだけ伸びばして、その気にさせるかだ」と言われました。帯広に戻つてからも2,3日、電話やメールが結構来ておりまして、両方合わせると、何百にかは、なると思いますが、みなさん「おめでとう」「よかったね」「よくやったね」って言ってくれましたけども、勝ったその日に、「だからお前はダメなんだ」と言ってくれた人は丹野監督だけでした。本当にありがたかったです。

実は、7/31に甲子園入りしまして、8/5組み合わせ抽選、8/8開幕といった日程だったのですが、まず、組み合わせが決まるまで、眠れなかったです。全国から、強豪校が集まるわけですから、ものすごいチームとあたって、20-0、30-0で負けたらどうしようと思ったんですね。そんな試合をして千歳空港に着いたら、石をぶつけられるんじゃないかもと思いました。でも、丹野監督に言われたことを思い出しまして、少しでも伸ばすことができたら、紙一重になるかもしれませんと自分自身に言い聞かせまして、気持ちを落ち切るようにしていました。もし、丹野先生にあいう言い方をされなかつたら、特に、甲子園入りしてからは、調整なんて言って、練習を、軽くというか、温くしかやらなかつたかも知れませんね。向こうに入つてからも結構厳しくというか、限られた時間内でも、少しでも上手くなる、強くなるんだと言い聞かせながらできました。その結果あのよくな接戦に持ち込んだのかなと思います。このように、山本先生、丹野先生お二人に出会えたことが、現在でも私の支えになつてゐるんですけれども。

最初にちょっとお話ししました。帯広大谷に赴任した一番最初の4人の子たちもですね、今でもやっぱり自分自身の支えになっておりまして、4人のうち、2人は野球経験者だったんですけど、1人は、中学時代、卓球部でもう1人は何もやっていなくてですね、高校入学後は、美術部に入る予定だったらしいんですけど、4人で1年間やりまして、翌年、9人の1年生が入部してきました、経験のある3年生2人も手伝つてもらつて、試合に出られたのですが、結果は、帯広工業で1-21の5回コールドで敗れました。その時にもちろん助つた3年生は引退ですけども、入ってきた1年生9人も全員やめると言つてきました、困ったんですけども、引き留めるだけの要素が何も無くてですね、また4人に戻つてしまつたんですが、その4人にも、野球をやめて、ほかの部に入つていいよって言いました。そしたら、「先生、ちょっと4人で話し合いますから、時間をください。」っていうんです。いいよ。と言って、私自身は、4人全員やめるだろうと思つておりまして、また、4人きりのさみしい練習になるし、ましてや、練習場所もままならず、日々転々としてたわけですから。しばらくして、職員室に来てですね、「4人で最後まで野球をやります。来年また新しい1年生が入部てくるかもしれないし、もしも入部してこなくて、試合に出来なくなつても最後までやります。」と言つてきました。何度も確認したんですけど。グランドもまた、無いし、本当に出られないかもしれないよ。でも、最後まで、やりたいと言つてきました。その時のことが今でもはっきり思い出されますし、自分自身もプレーヤーとして、やっていた時のつらさなんて、この4人の選手たちに比べたら、そのかけらほどにもならないと思いました。今でもたまに、特に、道具を粗末にしていた時なんかは、この4人の選手たちのことを言つて生徒を叱ることがあります。そういう意味では、この選手たちと出会えて、この選手たちが最後までやつてくれたことで、今の選手たちを注意できるというか、一つ、成長させることにつながっているのかなと思います。また、先ほども言いましたが、昨年甲子園に出場できた生徒たちに出会えたその源になっていると思います。

昨年の生徒ですが、「やっぱり、今までのチームの中で一番強かったのですか？」ということを聞かれるのですが、自分は、決してそうは思わないんです。力的には、初めて北・北海道大会に出場したチームが一番強かったかなと思います。今まで、私自身17年目で、最初の1年目は、試合に出られなかつたわけですから、16チームを監督することができたんですけども、おそらく、3番目か、4番目ぐらいの力かなだと思います。こんなこと言うとあの子たちに怒られるかも知れませんけど。じゃあ、どうして甲子園に行けたのかと言いますと、こううだつたから、何てことは自分もわからないんですけど、もちろん、いろんな要因が重なつたとは思いますが…、例えば、組み合わせ抽選とか、試合日程なども、もちろんあったと思いますけど、組み合わせでは、やぐらの一番左側に来て、準決勝の前に2日休めましたし、抽選もですね、自分たちにとってはいい方向に動くことが多かつたですね。でも、一番は、このチームの特徴として、良くも悪くも、その気になりやすいといいますか、調子に乗りやすい子が多くいたと思います。そういう意味では、今までのチームの中では、一番でしたね。良くも悪くもと言いましたが、どちらかと言うと、悪く働くことが多い、私も、部長も、こいつらは、手綱を緩めることはできないなとしょっちゅう言つていました。また、勉強もできなかつた生徒が多かつたですね。ま、誰とは言えないですけれども。ただ、やっぱり良い部分もありまして、実は、夏の甲子園につながる十勝支部予選が始まったのが、6/23からなんですけれども、その前の週まで練習試合を毎週やつております、8連敗して本番の大会を迎えておりました。ですから、6月に入ってからは、ほとんど練習試合では勝つないまま本番に入りました。もちろん、甲子園を狙つている強いチームともやつておりましたけれども、それでも8連敗して本番に入るというのは初めてでした。でもこの選手たちは、あまり気にしないといいますか、切り替えが早いといいますか、いいほうに考えて、本番では、ここを修正して、絶対勝つという感じは見受けられました。ですから、北・北海道大会でも、甲子園でも、十分力を発揮してくれたと思います。最後にホームランを打つ亀井が、中盤の大変な場面で、スリーパンツ失敗している選手なんですかでも、普通の選手だったら落ち込んでしまうかも知れませんけど、まったく引きずらないで、最高のパッティングをしてくれたと思います。そういう切り替えのよさとか、いいほうに考えるというのは、言つてもなかなかできるものじゃなくて、育ってきた環境や、友人、チームメート、チームの雰囲気とか、いろんな要素があって、できていくと思うんです。今、亀井を例に挙げて言つましたが、そういう選手が本当にこのチームには多かつたかなと思っています。こういう要素をもつた選手に出会えて甲子園につながつたとも思っています。

最後になりますが、今、「人と出会い、甲子園へ」ということで、自分の恩師のお二人の先生と、最初の4人の選手たち、そして、今回のメンバーのことと少し、話させていただきましたが、このたびの、甲子園出場は、自分ひとりでできたことは何一つなくてですね、たくさんの人にお会いえた結果だと改めて感じているところであります。もちろん他にもたくさん勉強させてくれた人がおりまして、生徒であるとか、指導者もそうですし、これは、野球の選手とか、野球の指導者に限つたことではないと思うんですけど…。これからも人との出会いを大切にし、そこから自分自身、少しでも成長し、生徒たちの夢に少しでも近づけるように努力していきたいと思っております。本日は、ありがとうございました。

■プロフィール 綱野 元氏	1972年4月11日生まれ 渡島管内知内町出身
帯広大谷高等学校	野球部監督
1982年 知内町立中の川小学校	3年次より野球を始める(六年次主将)
1987年 知内町立知内中学校	3年次同校初の中体連渡島・函館大会優勝
1990年 北海道知内高等学校	中体連北海道大会三位(三年次主将)
1994年 札幌大学	3年次同校初の函館支部予選優勝
1997年 帯広大谷高等学校	南北・北海道大会一回戦敗退
	世年次札幌六大学リーグ優勝
	札幌六大学・北海道六大学代表決定戦優勝
	北海道・東北代表決定戦敗退
	公民科教諭として着任

## 渡辺喜代美 会長

1月最後の例会です。各界の新年会もそろそろ落ちついたところですね。先週実施しました健康診断の検査結果が出ておりますので、各自体調管理の指針にしていただければ幸いです。

さて、今月号のガバナー月信Vol.7「菅本ガバナーのメッセージ」中に、「北海道ロータリーEクラブ」設立準備のお話が掲載されました。なかなか進まぬ会員増強への突破口として、Eクラブ設立は菅本ガバナーの熱意と挑戦であると思います。時代の変化は、ロータリアンの高齢化問題と併せて、ロータリー運動にも大きな影響を与えています。ぜひ、良い結果が導かれますよう期待したいと思います。昨年開催された規定審議会の様子が瞬時にfacebook、ホームページに掲載され、世界中のロータリアンが情報を共有出来るようになりました。田中PDGの時代とは、随分勝手が違い驚く事が多いと思います。昨年、当クラブも次年度の組織改変に向けて定款変更をさせていただきましたが、さらに定款・細則の改変を進めたいと考えています。どうぞみなさまお気づきの点がありましたら、アドバイスよろしくお願いします。

また、本日は昨年甲子園出場で私達に感動をくださいました帯広大谷高等学校野球部監督の綱野元さまより卓話をいただきます。監督のお話から、未来の帯広RC創造のため、それぞれの立場で勉強をさせていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

小田 剛 幹事

## ■会務報告

①帯広RC、第5回クラブ協議会開催のご案内

日 時 1月29日(水)午後6時  
場 所 ホテル日航ノースランド帯広

会 費 2,000円

出席義務者 理事・役員・各委員長

②帯広RC・芽室RC・音更RC、7RC合同例会開催のご案内

日 時 2月12日(水)午前11時45分～午後1時30分  
場 所 ホテル日航ノースランド帯広

講 師 小田島裕一氏 (有)ゴーアヘッドジャパン取締役

演題: 国境を越えた人間作りから見える国際理解

～スケジュール～11:45～ 会 食 12:40～13:20 講 演

12:15～ 例会開始 13:30 例会終了

\*帯広西RCは、2月13日(木)の繰上げ例会と致します。

帯広北RCは、2月14日(金)の繰上げ例会と致します。

帯広南RCは、2月17日(月)の繰上げ例会と致します。

帯広東RCは、2月18日(火)の繰上げ例会と致します。

④・帯広南RC、2月10日(月)の例会は、休会と致します。

・帯広東RC、2月11日(火)の例会は、祝日のため休会と致します。

⑤・帯広RAC、例会開催のご案内

日 時 2月9日(日) 10:00～14:30  
場 所 然別湖畔温泉ホテル 風水

内 容 3ブロック合同例会(四 役)

## ■委員会報告

### ・出席報告

1月29日例会の報告 会員総数90名(内免除会員5名) 出席者数59名(内免除会員1名)

1月15日例会のマークアップを含む出席者数及び出席率 69名 80.2%

### ・ニコニコ貢献

小水 基弘 会員

先週、本人からも宣伝があったと思いますが、私のロータリーの推薦者である野村文吾君が題材になったミュージカル「KACHIBUS」が2/14-15帯広にて公演されます。チケットがまだ残っていますので是非、購入して下さい。

小林 一夫 会員

先週の例会で、私がテーブルマスターをつとめるテーブルが全員出席となりました。出席ありがとうございました。

・出席表彰記念 小田 剛 会員 小林 善之 会員

## ■ボーラハリス表彰



■誕生日記念日祝 廣田 誠 会員

## ■次週プログラム予定

2月5日(水)「スマートライフの実現に向けて」

(プログラム委員会)

廣田 誠 会員



↑携帯サイトが  
できました。  
バーコードリーダーで読み込む  
事ができます。

例会日 / 水曜日 12:30～13:30

例会会場 / ホテル日航ノースランド帯広 TEL0155-24-1234

●創立 / 昭和10年3月15日 ●認証番号 / 3820 ●戦後再開 / 昭和25年12月19日

●事務局 / 帯広市西3条南9丁目 経済センタービル4F TEL0155-25-7347 FAX0155-28-6033

●発行 / クラブ広報

●委員長 / 大和田三朗・副委員長 / 中島 一晃

委員 / 下山 正志・野村 一仁・伊藤 誠吾・高橋 猛文・河村 知明

●ホームページアドレス / <http://www.obihiro-rc.jp>